

よりよい職場環境づくりを目指し 心に寄り添う健康管理を推進

ナイカイ塩業株式会社



全従業員を対象としたメンタルヘルス研修の様子

ナイカイ塩業株式会社は、1829（文政12）年に創業、穏やかな瀬戸内海を一望する地で188年にわたって製塩業を営み続けてきた。日々の暮らしに欠かせない「塩」の安定供給に努め、食文化の根幹を支えることで地域貢献を目指す。一方、製塩技術をもとに化成品事業に進出して半世紀が過ぎ、現在では水酸化マグネシウム、炭酸マグネシウムなど幅広い製品を製造、肥料や食品添加物、工業薬品、医薬原料の分野にも業容を拡大している。

かつて「塩づくり」は過酷を極めた時代があったからこそ、人を大切にする社風が熟成されてきた。そのDNAを受け継いだ意欲的な健康管理の取組みを紹介する。

チームワークを力に

海に面した広大な工場の一角に、従業員の休憩室や更衣室を完備した厚生棟があり、診療所も設置されている。診療所には看護師が常駐するほか、地元の産業医が週2回来社する。「私は6年前に看護師として入社しました。実は13年前に脳溢血で倒れ、左半身に麻痺が残りました。一度は看護師の仕事を諦めかけたのですが、縁あって会社が声をかけてくれました。入社当初は、障害を持つ私が人の健康管理に責任が持てるのだろうかと不安でいっぱいでしたが、産業医の近藤潤次先生や、ともに従業員の健康管理に携わる総務部の仲間に励まされ、夢中で歩いてきました。自分が病気をしたことで心身の健康に不安を抱える人の心に寄り添うことができ、これからは私が恩返しするときだと思っています」と看護師の井上薫さんは語る。

井上さんが所属する総務部は総勢8名の陣容で、その中に大内雄一郎部長代理と國西恭平課長代理という心強い仲間がおり、衛生管理者の資格を持つ2人は同社の安全衛生管理の事務局を兼任している。何か困ったことがあれば3人で綿密に話し合い、さらに役員に相談の上で月に1度の安全衛生委員会に反映される盤石の仕組みが構築されている。

「技術革新によって塩づくりも近代化されましたが、塩田の時代は重労働でした。昔の話ですが給金とは別に会社から米や味噌を支給したという話を聞いたこともあります。その相互扶助の精神は今に受け継がれているようで、創業者である現在のトップも従業員の健康管理についてさまざま

まな形で支援を図っています。当社では交替勤務制の従業員もいるため、春と秋の年2回、健康診断を実施しています。受診率は100%で、二次健診においてもほぼ100%受診を果たしている背景には、工場敷地内に診療所があることもあります。都合のよい時間を予約して勤務時間中に受診できますし、上司の理解のもと、現場では支障が出ない体制が取られています。また、インフルエンザの予防接種を全額会社で負担するという取組みは2年目に入りました」と大内部長代理。

6月と11月には産業医による健康相談を実施、地元で顔なじみの近藤先生だからこそ気軽に相談できると従業員には好評で、健康の大切さへの気づきの場となっている。

不調のサインを見逃さない

健康診断に関わることでは何の問題もない同社だが、メンタルヘルス面については後れを取ってきたため、井上さんは、6年前に赴任すると真っ先にメンタルヘルス対策に取り組んだ。

「私自身、せっかく看護師の資格を取りながら、それを活かさぬままに病気になり、自分が何の役にも立てない人間だと精神的にまいってしまったことがありますし、同時にどん底から復職できた喜びも味わいました。この貴重な経験をメンタルヘルス対策に活かそうと、診療所に鎮座しているのではなく、進んで現場に出て、個々人の悩みや愚痴などにじっくり耳を傾けることにしました。温かくて穏やかな社風とはいえ、やはり心に不安を抱えている人は少なからずいました。しかし、メンタルヘルス対策といっても何から着手すればいいのかかわからず、岡山産業保健総合支援センターにすっかりお世話になりました。研修を受けたり、相談に乗ってもらったりしながら、当社に一番ふさわしい方法を模索しました。その中でストレスチェックの開始にあたっては外部に依頼せず社内でやるのが大切だと考え、産業医の近藤先生に相談したところ快く実施者を引き受けてくださいました。社内で説明会を開いたことで従業員のストレスチェックに対する不安が和らぎ、義務化と前後して実施することができました。近藤先生の協力のもと、当社のメンタルヘルス対策が一步前へ踏み出しました」。

昨年には、やはり、岡山産業保健総合支援センターの相談員の協力でセルフケア研修と管理監督者研修を実施した。井上さんがメンタルヘルス対策に注力するのは、かつて1人の不調者を出してしまったとき、その人が示していたサインに気づけなかった悔しさが忘れられないからだという。ほんの小さな不調のサインを見逃さないためにも従業員の話を丁寧に聞く機会を増やしていくこと、また、昨年実施したストレスチェックでは集団分析を行ったため、その結果をもとに職場環境の改善に取り組むことなど課題は山積しているが、不安に寄り添うと決めた井上さんには迷いが無い。

誰もがいきいき働くために

「近藤先生の名前が何度も出てきますが、産業医による職場巡視が、現場から直接近藤先生に要望を出せる機会となっています。地元の方なので地域の事情もよくご存じで、従業員が先生を信頼していることが当社の健康管理の推進に大きく影響していると思います。もちろん総務の仕事はこれだけではないので、正直いえばとても忙しいのですが、その分やりがいもあります」と國西さん。

「野球場やサッカー場、体育館などを周辺に整備し、当社はクラブ活動が盛んです。安全衛生を管理する事務局だけでなく、厚生活動の事務局も仕事の内なので本当に多忙ですが、1人でも多くの人に健康保持の大切さを気づいてもらえるよう、しっかりアナウンスしていければと思います。総務部のスタッフと井上看護師、そして近藤先生とでしっかりタッグを組んで、いきいきと働き続けられる職場づくりを目指していきます」と大内部長代理が締めくくった。

ちなみに野球場やサッカー場は地域のスポーツ少年団に開放している。また、従業員の多くは消防団や獅子舞などの活動に積極的に参加し、地域の活性化に一役買っている。創業188年を誇る同社は、いくつもの時代を経て、今や瀬戸内の風景そのものとなった。

会社概要

ナイカイ塩業株式会社

事業内容：塩、各種マグネシウム製品ほか化成品の製造、不動産事業

設立：昭和9年

従業員：134人

所在地：岡山県玉野市